

2022 年度  
創発的研究支援事業 年次報告書

|        |                                |
|--------|--------------------------------|
| 研究担当者  | 森本直記                           |
| 研究機関名  | 京都大学                           |
| 所属部署名  | 理学研究科                          |
| 役職名    | 准教授                            |
| 研究課題名  | 人類最後の共通祖先からサピエンスへの進化史          |
| 研究実施期間 | 2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日 |

**研究成果の概要**

本年度は COVID-19 による制限も緩和され、研究担当者と分担者の 2 名がトルコ共和国に渡航することができた。アナトリア半島南部における新規人類化石発見にむけ、後期更新世と推定される洞窟遺跡でトルコ側研究者とともに発掘調査を行った。発掘調査では多数の人工遺物（石器、貝殻による装飾品）、動物化石等を発見し、全ての発見物の遺跡内の三次元座標をミリ単位の誤差で測定・記録した。さらに、年代測定のための土壌サンプルも収集した。化石資料は、可能な範囲でマイクロ CT 撮像あるいは表面をスキャンし、三次元データを収集した。今後、石器様式及び骨格形態の分析を行い、特に同時代のレバント（中東）の他の地域やヨーロッパで出土した石器や化石との比較の必要が必要である。加えて、新規遺跡の発見のための周辺地域の踏査を実施した。この結果、既に知られていた場所ではあるが、比較的小規模な洞窟で初めて動物化石を発見し、人類が居住した可能性を確かめた。骨格資料の炭素同位体比分析の結果、表土の化石は近現代のものであったが、周辺にちらばる石器の状況から、より深層には古い時代の人骨化石が存在することが期待できる。